

## 進捗状況の概要（1ページ以内）

本学における大学教育再生加速化プログラムの目的は、社会のパラダイム・シフトに対応する3つの人材、①自発自燃型人材、②グローバル人材、③地域貢献型人材を育成することである。そのため、平成27年度から1年生全員を対象とし、第2学期を中心に長期学外学修プログラム「武蔵野フィールド・スタディーズ」（以下長期FS）を実施している。これにより、先の3つの人材の育成に必要且つ、将来の変化の激しい社会環境や雇用状況の変化にも対応できる、主体性や問題発見・解決能力等の汎用的能力を磨き、伸ばすことを目指している。

学内の実施体制については、学長直轄の組織である「教育改革推進会議」とその小委員会を軸に本事業（教育改革）を推進した。小委員会では「自立的学習者育成」「アクティブな学び」の具現化を目指し、トライアル授業を運営支援、試行的実施を展開した。また、学外学修プログラム受講者の成績推移や学生生活実態調査等から、成長実感や活性度等について検証可能な体制を構築した。上記に加え、平成29年度よりFS小委員会を設置し、年6回開催した。FS運営に係る課題や対応を議論し、より機能的且つスピーディーに運営する体制とした。更に、平成30年1月より学外学修推進センターを設置し、質・量ともに充実したFSの実施と、プログラムの発展稼働を目指した体制を構築した。

中心となる取組である、全学部1年生全員必修（薬学部除く）のFSについては、平成29年度の長期FSのプログラム数を昨年度16から59に増やし、長期FS参加者386名、短期FS参加者1,700名以上を学外に送り出し、連携先と協働しながら相互の目的達成に資する活動を実施した。学生が自主的に参加するプログラムを選択し、事前学修を通して主体的に活動に取り組む意識と姿勢を涵養した。また、それらの事前学修を踏まえて、現地での調査・研究活動を体験し、そこで培った様々な知見を基に、連携先にプレゼン（レポート・提言）を実施した。長期の学外学修プログラムの拡充により、主体的に取り組む機会や問題発見する機会等が増え、連携先へのプレゼンもより効果的なものとなった。

取組の成果については、FSに参加した学生、活動・協働先、指導教員にアンケートを実施し、学修効果を検証した。本学DPを踏まえてFS参加学生に求める成長指標等を定義し、FSの事前と事後で実施した学生アンケートでは、「自発的に踏み出す力」や「自らの考えを表現・発信する力」の成長を実感している学生が多いとの結果が得られた。また、活動・協働先へのアンケートでは「地域にはない若い目線での企画・提案が得られた」「学生のSNSでの情報発信等により地域のPRになった」「移住促進（地域への関心）の可能性が得られた」等の意見があった。更に、参加学生、活動・協働先、指導教員のアンケート結果を踏まえ、大学担当者が直接現地に複数回赴き、互いの到達目標やプログラムの設計詳細、危機管理等について振り返りを行い、改善点を共有し、次年度に向けたプログラムの発展を目指した。

補助期間終了後の継続発展に向けた取組については、学長直轄の組織である教育改革推進会議と、平成30年1月に設置した学外学修推進センターを中心に、現状の課題である①活動先の開拓、②科目履修の学内調整、③プログラムの質保証、④規模に応じた運営推進の教職協働体制の構築等、の解決を図りながら、補助金終了後の新たな運営推進体制を構築し、全学的な特色ある取組として発展的にFSを推進していく。また、同窓会組織等と協議のうえ、大学内のFS基金設置を検討していく。

学内外への波及効果については、全学的なFDを年4回実施した中で学外学修プログラムの導入効果等について、理解を促進した。併せて3月には公開シンポジウム「始まりとしての学外学修～体験をカタチにする知性と主体性を求めて～」を実施し、その報告と成果の一部は、「平成29年度学外学修プログラム事業報告書」に記載し、学外への成果の発信を行った。また、学生が活動中にFacebookに取組内容を掲載し、そのFacebookを本学ホームページ上へ公開することで、学内外のステークホルダーの当該取組みに対する理解を促進した。